

式 辞

先日の2月寒波もやっと終わりを告げようとしており、日中の日の長さも少しずつ長くなりつつあることを感じ始めた、このよき日に、PTA会長 松原 正智 様とともに、広島市議会議員の 若林新三 様、三宅朗充 様、本校の前身である安佐北高校卒業生の広島県議会議員 山形しのぶ 様をはじめとしたご来賓の方々と、保護者の皆様にご列席いただくとともに、3年生から5年生までの在校生も参列する中で、広島市立広島中等教育学校 第六回卒業式 を挙行できますことは、この上ない喜びであり、深く感謝申し上げます。

本日、6期生の皆さんに授与した卒業証書は、平和と希望の象徴であるヒロシマに捧げられた折り鶴を再生した紙でできており、平成28年3月の卒業式から、広島市立の学校で使用されています。この取り組みには、巣立っていく皆さんに、世界の人々の平和を願う思いを共有し、広島で学んだことに自覚と誇りを持って、次のステージで努力してほしいとの願いが込められています。

その卒業証書を手にした6期生の皆さん、卒業おめでとうございます。振り返れば、皆さんは、本校での生活の半分にあたる2年生から4年生までの3年間をコロナ禍で過ごすなければならず、マスクの着用が義務付けられ、自宅待機や分散登校の実施など、未だかつてなかったことを多く経験しました。しかし、5年生の5月から新型コロナの感染症法上の位置づけが5類に移行してからは、生徒のリーダーとして、学校行事や部活動において、後輩たちを優しく導きながら、コロナ前の活動に少しでも近づけるように努力し、成功に導いてくれました。そして本日、本校教育課程を無事修了し、こうして立派に成長した皆さんの姿を見ることができ、私たち教職員一同、大きな喜びを感じるとともに、在校生と一緒に、今日の門出を祝福したいと思います。

卒業にあたり、校歌にあるように「挑戦者（ひと）」として、「未来を翔る 若い翼」で、まさに羽ばたこうとしている皆さんに、私から3つほどお願いしたいことがあります。

一つ目は、いろいろなことに挑戦してほしいということです。4月からは皆さんは新しい生活が始まります。新しい生活が始まると、うれしいことや楽しいことばかりではなく、苦しいこともあるかもしれません。でも不安になるばかりではなく、思い切って新しい世界に飛び込んでほしいと思います。そして、自分が「これだ」と思えるものに出会うことができるように、積極的に様々なことを経験してみてください。

二つ目は、その時、その瞬間を大切に生きてほしいということです。人生は思うようにいかないことがたくさんあります。しかし、それを憂うのではなく、次に幸せをつかむためのステップだと考えてください。

私は教諭時代長く卓球部の顧問をしていた関係で卓球関係者の会合や講演会に誘われて行くことがあります。昨年、五輪メダリストの石川佳純さんが参加するイベントがありました。その際に、小学生から「石川さんは卓球を辞めたくなったことはありましたか」という質問が出されました。それに対して石川さんは「何度もありました。特に頑張っても結果がダメだった時などはもう辞めようと何度も思いました。でも1週間くらいラケットを持たなかったら、ラケットが気になって仕方なくなるんです。結局、ラケットを持ち、『昨日より今日』と気持ちを切り替えて努力を重ねてきました。努力は、良い時はもちろん

んですが、悪い時も同じように続けることができるかが大きなポイントなのです。」と、やさしく小学生に答えられていました。私もまさにそうだと感じました。繰り返しになりますが、人生は思うようにいかないことがたくさんある。そんな時こそ、投げやりになるのではなく、気持ちを切り替え、その瞬間を大切に、努力を続けていってほしいと願っています。

そして三つ目は、よきリーダーになってください。ここで言うリーダーとは、会社の社長など、社会や組織のトップに立つ人のことではありません。例えば、その道を究めて人々の生活に光を与えている人や、人の命を支える医療従事者、世の中の秩序を守るために尽力している人、そして、社会において周囲の人々に大きな影響を与えることができる人、そのような人を、ここではリーダーと言っています。

つまり、自分ファーストではなく、社会全体を俯瞰し、社会全体の幸福（しあわせ）のために行動できる人です。多彩な能力や可能性を持っている皆さんだからこそ、周りの人々を幸せにし、おごらず謙虚に、周囲への思いやりを忘れず、当たり前のことを当たり前に行える、そんなリーダーになってほしいと心から願っています。

「漫画の神様」と呼ばれた手塚治虫さんは、「人を信じよ。しかし、その百倍も自らを信じよ。」と言っています。自分を信じて事に当たることの大切さや、自分を信じることができる人こそが、人を信じることができ、人に寛容になれると言っているのです。まさに、そのことも、よきリーダーの資質だと思っています。是非、これからの生活のなかで、よきリーダーになれるよう精進してください。期待しています。

保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。入学以来、本校教育に温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。子育てを振り返ってみると、お子様が病気になった時の看病、元気がない時の心配など、ご苦労の連続であったと思います。うれしい時も悲しい時もいつも、お子様とともに同じ時を過ごしてこられました。本日は保護者の皆様にとっても子育てからの一応の卒業です。長い間本当にお疲れさまでした。

今日、お子様は卒業していかれますが、末長くご縁をいただきますようお願い申し上げます。これからも、保護者の皆様や卒業生の皆さん一人ひとりの人生が、幸多きことを祈念して、式辞といたします。

令和7年3月1日

広島市立広島中等教育学校
校長 横山 尚司